

多 久 議会だより

2021



令和3年
6月定例会
第49号
5月臨時会



5月臨時会・就任挨拶	P2
人事報告	P3
6月定例会・審査報告	P4
議案質疑	P5
一般質問	P6~9
まちで発見!	P10

令和3年度 東原庁舎東部校体育祭



多久の歴史 飛鳥・奈良時代の多久

地方豪族(首長)の支配による古墳時代、近畿地方では大和王権が出現し、勢力を拡大し統一を進めた後、飛鳥・奈良時代(6世紀末~8世紀末)へと向かいます。飛鳥時代は聖徳太子による摂政が始まった時期とされています。

その後、大化の改新(天皇中心の国家をつくることを目的とする改革)などを経て、一定数の民を指定して、そこから徴収する租税を官人の収入とする封戸制や班田収授の法が設けられるなど唐の律令制度にならって公地公民制を施行することになりました。このころ肥前地方にも国府がつくられ、租・調・庸(税)として米などが集められました。

奈良時代頃の土地制度として多久で確認できるものには、条里制があります。

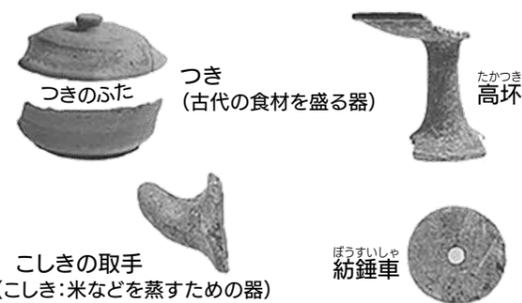
条里制とは、地割のことで、班田収授と関連するとの考え方によれば、口分田として男子に二反、女子に男子の三分の二が支給されたもので、北は秋田から南は鹿児島まで広く分布していました。地割には一ノ坪から三十六ノ坪までの呼称がつけられました。多久にあっては、東多久町別府の小字に「三ノ坪・六ノ坪・八ノ坪」等があり、いずれも条里制に関する地名です。



▲東多久町別府付近の条里制の小字名

多久における地割の分布は、今出川流域、牛津川流域に存在したものと思われます。

また、この時代に関連する遺物としては、平成12年に行われた東多久町仁位所の発掘調査では、奈良時代の多数の須恵器や紡錘車(糸をつむぐ道具)などが出土しています。



▲仁位所遺跡(7世紀後半から8世紀頃)

6世紀前半は、日本に仏教が伝来した時期でもありました。仏教は、聖徳太子が蘇我馬子とともに普及につとめ、四天王寺・法隆寺をはじめとする寺院を作りました。



▲南多久町桐野妙覚寺

多久市における寺院の建立は、南多久町桐野にある妙覚寺が最も早く、「丹邱邑誌」(多久家の儒臣深江順房の手によるもので、多久の郷土史の基礎資料として評価されている。)によると、僧正行基(飛鳥時代から奈良時代にかけて活動した仏教僧。民衆や豪族など階層を問わず広く仏教を説いた。併せて困窮者の救済や社会事業を指導した。)に勅命(天皇の命令)により草創し、行基手刻の正観世音大士の像を安置し天下安全の勅願所としたとあります。

UDFONT

見やすく読みやすい
ユニバーサルサインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

委員 田野 北	委員 榊島 永二 郎	議会広報委員会 委員長
厚 悟	副委員長 鷲 崎	
香 月	義 彦	
正 則		

